

## 昔の人たちの水を大切にする工夫

私の学校では、総合学習の時間に郷土学習をします。その郷土学習で私は一年生の時に「氷室」という、昔冷蔵庫がなかった時代に使っていた氷を貯蔵しておくところについて調べました。

私が住んでいるここ、福住というところは昔から山の水がとてもきれいです。それで、その山の水を使って氷を作って貯蔵していたそうです。そしてその氷を天皇へ献上していたと地元の人に教えていただきました。氷を貯蔵するために昔の人が作った氷室跡がたくさん残っています。今は氷室があった場所には「都祁氷室の旧跡」と書かれた看板が立てられ、福住中学校の裏や福住小学校の裏などのいろんなところにあります。私たちは、その氷室跡を探して歩いてきたという岡田さんといろんな話を聞かせていただきました。氷室の

天理市立福住中学校 二年

植田 奈央

ことを調べようと思ったきっかけや、氷室跡に行つて実際に一人で大きさを測つた体験談などをお聞きしました。「氷室」といっても現在残っているのは、山の斜面の大きな穴だけです。岡田さんはいろいろ工夫しながら氷室の大きさを測られました。直径5メートル、深さ3メートルほどと思つたより大きかつたので私はとても驚きました。後日、みんなでフィールドワークに行つた時に岡田さんに氷室跡を見せていただきました。岡田さんに、「氷室跡入ってみてもいいよ。」

と言われ私たちが入ってみると、人五人くらいは余裕で入れる大きさでした。その時私はこれなら結構な量の氷も貯蔵しておけるなと思ひました。私たちが入つた氷室跡の近くにはもう一つ氷室跡がありました。そこはさっきの氷室跡のように、人五人も入れる氷室跡

ではありませんでした。その氷室跡は私たちが入った氷室跡よりはるかに小さく深さもそんなに深くありませんでした。私は、「氷室」といつても全て同じ大きさではなくて、いろんな大きさがあるんだなと思いました。そして、こんな分かりにくい小さな氷室跡なのに、岡田さんはよく見つけたなと思いました。氷室に氷を貯蔵しておくのは、福住だからこそできたことなんじゃないかと私は思います。ここ福住は標高が五百メートル近くと高いところにあつて、平地より気温も低いのです。だから昔の人は、今と違って冷蔵庫がないので貴重な水で作った氷をとかさないために「氷室」というところを作つて、大切に大切に貯蔵していたのでしよう。

今は、毎年「氷祭り」が開かれ、復元氷室に各家で作った氷と福住の水を使って村の人が作つてくれた氷を貯蔵し、半年くらいたつた海の日に取り出して重さを量ります。冬に氷を入れる時は小さい子たちが大人と一緒に協力して入れたり、夏に取り出す時は大人が氷を車に乗せて子供たちがひもをみんなで引っ張つて近くにある福住小学校まで運びます。

私にとつてはとても楽しいお祭りです。海の日に取り出すと、半年ほど貯蔵しておいた氷は少しはとけてしまつているけど毎年一キログラムから三キログラムぐらいは残つています。そしてその取り出してきた福住の水で作つた氷でボランティアの村の人がかき氷を作つてくださいます。私はかき氷の中で氷祭りで食べるかき氷が一番好きです。

私にとつて水とは、いつでも水道から出て、どこにでもあるものでした。でも、岡田さんのお話を聞かせていただいたから私の中で「水」というものの存在が大きく変わりました。私たちが普段、普通に使つていてる水が世界のどこかではなくなつてしまつていつていてるのかも知れない、福住の昔の人たちのように水が十分になく、氷にして貯蔵しておくなどの工夫をしながら生きていてる人もいます。私はこれから先も水を大切にしながら生きていきたいです。